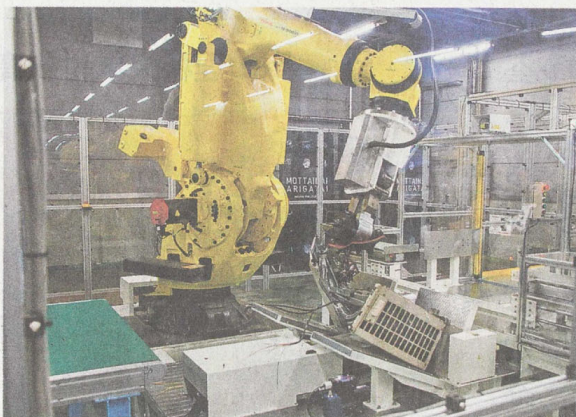


## 平林金属工場で実証実験中 室外機解体ロボ公開



室外機を解体するロボットの試作機。  
パナソニックグループが平林金属の工  
場で実証実験している

化が難しかった。ただ手作業の負担は大きく、労働人口の減少もあり自動化は喫緊の課題とされる。同グループは、リサイクルが義務付けられている4品目（冷蔵庫、洗濯機、エアコン、テレビ）のうち、購入台数の増加で廃棄量の伸びが見込まれるエアコンの室外機に着目。アーム型のロボットを開発し、昨年12月から同工場で運転している。

この日は試作機のデモンストレーションがあり、付帯設備により室外機を自動で器具に固定した後、ロボットが上板や側板を引き剝がし、速やかに基盤やコンプレッサーなどの部品を取り出した。手作業で4分かかる工程が90秒に短縮されるという。

平林金属の平林実社長は「工場では多様な家電を扱っている。パナソニックの高度な技術で他の品目にも自動化が広がることを期待したい」と話していた。

（岸本渉）

### パナ開発 90秒で部品取り出し

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）は16日、エアコンの室外機を解体するロボットの試作機を、家電を再資源化する自社工場・リサイクルファーム御津（同御津高津）で報道陣に公開した。試作機は、パナソニックグループが開発し、同工場で実証実験中。手作業の大部分を自動化し、作業効率を約3倍に高めるという。2026年までに実用化し、同工場などに導入する。

家電の解体は、メーカーにより構造が異なり自動